

平成 28 年度第 2 回庄内町スポーツ推進審議会 会議録

- 1 開催日時 平成 29 年 2 月 24 日（金） 13 時 30 分～15 時 15 分
- 2 開催場所 庄内町総合体育館 研修室
- 3 出席委員 齋藤正明、富樫希江、時吉久美子、加藤則代、高橋たず子、梅木隆  
齋藤雅志、小林裕之
- 4 欠席委員 佐藤正弘、遠田雅弘
- 5 事務局 社会教育課長 本間俊一、社会教育課長補佐 小林重和、社会教育課主査兼  
文化スポーツ推進係長 阿良佳代子

-----  
進行：社会教育課長

1 開 会 社会教育課長

2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の氏名

会長より指名 【時吉久美子委員・加藤則代委員】

4 報 告

- (1) 平成 28 年度社会体育事業実施（報告）について（下半期）  
《資料 1 により事務局説明》

5 協 議

- (1) 平成 29 年度庄内町教育委員会の重点と視座（案）について  
《資料 2 により事務局説明》

【委 員】 「6 豊かな自然・人や施設を生かし、健康と生きがいをつくる生涯スポーツの推進」の 2 つ目の□「各世代に適応したスポーツ・レクリエーション活動の普及、支援」と 4 つ目の□「スポーツの楽しさを実感できる活動の推進」は、対象者を絞ったほうがいいのか。「普及」は、あまりスポーツをしていない人を対象とする取り組みなのか。後段は、今までもスポーツをしているが、より楽しさを追求することなのか。自分は、「各世代」という言葉は使わず、「生涯各時期」と使うようにしている。世代という言葉に違和感がある。

【事務局】 委員の視点のとおり、普及ということについての考え方、4 つ目は事業を実際やっているなのでその事業の拡充という考え方になっている。2 番目の□の支援は、総合型スポーツクラブコメっちわくわくクラブさんに業務委託している。各団体から指導者の派遣について、文化スポーツ推進係で受け付けをし、コメっちさんに、指導をお願いしている。それをこちら側から支援としている。「世代」という表現については、「生涯各時期に応じた」と修正したい。

(2) 平成 29 年度社会体育事業と予算（案）について

《資料 3 により事務局説明》

【会 長】 平成 30 年度に大規模改修が予定されているが、8 月中旬に南東北インターハイの体操競技のサブ会場での利用があるとのことであるが、互いに支障はないのか。

【事務局】 新年度すぐに工事に入り、インターハイには間に合うように工期を設定する予定である。インターハイは、総合体育館、余目中学校がサブ会場等で 10 日間ほど利用することとなる。総合体育館は終日利用ができず、周辺の駐車場も利用も控えてもらうこととなる。

【会 長】 利用ができない旨は今後連絡するのか。

【事務局】 体育協会やスポーツ少年団の総会等では伝えてきているが、日程が正式に決まり次第十分に周知を図る予定である。

【委 員】 インターハイにより施設の利用が制限されるということであるが、「迷惑」という発想ではなく、「受け入れる」「明るくもてなす」という町の雰囲気を作ってもらいたい。

【会 長】 ぜひ、そのような気持ちで迎えたい。

【委 員】 卓球台 3 台を町が備品購入することのだが、指定管理者側と町とで購入に関する線引きはあるのか。

【事務局】 指定管理者側で使用する事務用の備品については、指定管理者で購入してもらい、金額にもよるが施設用備品は町が購入している。

(3) 庄内町社会体育施設整備に関する検討について

《資料 4 により事務局説明》

【会 長】 武道館の整備の件だが、総合的に判断して建てるとなれば八幡スポーツ公園の一角がいいのでは思う。ただ、駐車場が少ないのでその問題もある。今年度は、日曜日に大会等が重なって一般企業の駐車場を借りたのか。

【事務局】 駐車場を借りたのは、18~20 件ほどあった。駐車場を借りる会社は決まっておき、謝礼を出している。駐車場の問題はあがあるが、運動施設が集中していることで、各競技のサブ会場や練習会場として利用ができる。また、多目的に利用ができる施設を整備することにより、利用の幅も広がる。

【委 員】 もし建設された場合は、名称を武道館とするのではなく、多目的施設というような名称にした方がいい。

【事務局】 冷暖房の件を考えるとあまり大きい施設ではなくて、ある程度コンパクトな施設が必要となる。

【委 員】 ボール競技等の練習、トレーニングしたい場合、総合体育館の廊下は練習禁止となっている。近くに施設ができれば、アップ会場として利用できる。

【委 員】 サブアリーナ的なものがあり、天井が低く鏡張りだとありがたい。天井が高いと暖房が効かない。多機能な施設だと利用しやすい。設備を整えば利用したいという人がいると思う。寒いというのがネックになっていて、

冬場の利用は間違いなく少ない。

【事務局】 新しく武道場を考える場合、特定の種目のみが活動できる施設ではなく、みんなが使えて、いろいろな用途に使える施設の方がいいのではと考えている。

【事務局】 現在の武道館が整備されたときの広報をみたが、柔道や剣道、居合だけでなく、総合的に利用できる施設として建設したとあったが、現在は武道に特化している。

【委員】 確か、以前から武道で利用することがメインであったと記憶しているが。

【会長】 以前は、運動施設には冷暖房はいらな思われていたが、現在は観覧する人増えてきている。バドミントンや卓球など空調が影響する種目もあるが、今は冷暖房設備が整っている施設が増えてきている。

【委員】 総合体育館は、天井が高いのでジェットヒーターを入れても温まらない。

【委員】 全国大会で様々な運動施設を見ることがあるが、西日本では冷房はあたりまえになってきている。

【事務局】 来年度、南東北インターハイのサブ会場に総合体育館を貸し出すが、冷房設備がない中で、利用してもらうこととなる。インターハイについては、庄内総合高校から協力、指導いただきおこなっていく。インターハイまでには、トイレの改修も終わられる。利用状況を勘案し、男子トイレの手洗い場付近に小規模な女子トイレも設置する予定である。

【委員】 体育館の玄関のドアが重くて、車いすも入りづらかった。

【事務局】 現在、カーテンウォールの改修に合わせて玄関を自動ドアにする改修も行う予定である。

#### (4) その他

なし

## 6 その他

【事務局】 現在、教育委員会にて話題になっている事案が「いじめ防止」についてである。夏ごろから、体育協会やスポーツ少年団に注意を払ってもらいたい旨の依頼をしている。いじめは、学校でおこる場合だけでなく、学校外で起きているケースも多く、スポ少などが温床になる可能性もある。指導者にはお願いをしているものの、委員の皆さんからもいじめを把握した場合は、注意や教育委員会へ報告をいただきたい。いじめは、根本的に解決しないといけない。学校の方でも当事者などから話を聞きながら調整をし、解決に導いて初めて終わりとなる。この件については、以前から様々な場面で話をさせてもらっている。

【委員】 余目地区は、中学校に入ると各地区から集まってくるが、子どもと関わる仕事をしていると地域性みたいなものがあり学区の特徴があると感じる。家庭環境、学校での研修への保護者の参加率などにより、積極的に参加される保護者と参加しない保護者とでは、子どもにも影響があると考えている。人に対して、レッテルのような決めつけをしたり、傷つくような言葉を発したりする子ども

が多いと感じている。あまり学校の研修に参加しない保護者を持つ子どものケアが必要なのではと思う。

【会 長】 スポーツ競技の団体では、交流会を行っているので、そのような壁はないと思っている。

【事務局】 余目中学校は、各地区から集まってくるが、立川中学校は、幼稚園から中学校までずっと同じクラスであり、一度人間関係が壊れると修復が難しいケースが出てくる可能性もある。本町では、指導主事が2名体制でいるが、様々な相談のケースが増えてきている状況にあり、平成29年度からSSW：スクールソーシャルケースワーカーを町単独で新たに配置することとしている。また、町民会議の中で、地域の中で子どもを育てていこうという話し合いが行われた。みんなが連携をして、いじめをなくすという意識になってきている。

【委 員】 子ども同士は話をすれば仲間意識が芽生えてくるかもしれないが、保護者はなかなか柔軟に対応するのが難しい。結局変わらないのは大人の方である。

【事務局】 幼稚園の集まりの参加率はやはり高いが、小、中学校になるにつれ様々な責任が伴うようになってくると集まらなくなってしまう。それは、保護者の多様な就労形態も相まっている可能性もあると思うが。保護者が積極的に幼稚園や学校等に来てもらうとその先の相談にも結び付けられるのだが、なかなか難しい状況にある。

【会 長】 委員の皆さんも何か見聞きした場合は、連絡をしていただきたい。

## 7 閉 会 社会教育課長